

農山漁村地域整備計画評価調書

計画の概要	計画の名称	食と緑の創造県いわて森林基盤整備計画(第4期)
	計画策定主体	岩手県
	対象市町村	盛岡市 ほか32市町村
	計画期間	令和7年度～令和11年度(5年間)
	計画の目標	本県では、少子高齢化・過疎化などにより地域コミュニティの持つ機能が低下しており、特に中山間、県北・沿岸地域において、所得水準が低く、人口減少が著しい。また、大雨等で山地災害が毎年のように発生し、人家、道路、漁場等に被害をもたらしており、これらの地域の所得向上及び生活環境の改善が急務となっている。 一方、本県は広大な森林面積を持つ森林県であることから、この恵まれた森林資源を有効に活用することで、県産材の供給量を増大させ、地域経済の活性化を図る。さらに、適切な森林の整備により山地災害防止機能等を高度に発揮するとともに、山地に起因する自然災害に対して防災対策等を推進し、県民が安心して暮らせる社会を確立する。
	評価指標	1 県産材供給量(当該交付金実施市町村分・推定値) 令和7年度 1,102千m ³ → 令和11年度 1,135千m ³ (103%) 2 林道橋梁等の点検診断・保全整備実施率(100%) 3 山地災害防止機能が新たに確保された集落数及び強化された集落数(確保)令和7年度 973地区 → 令和11年度 983地区、(強化)45集落
	対象事業	森林整備事業、治山事業
	全体事業費	6,238,898千円 (基幹事業 6,238,898千円、関連事業 0千円)

区分	評価項目	評価	判定理由
目標の妥当性	1 関連する計画と整合性がとれていること(県民計画、地域森林計画等)	☑	「いわて県民計画」との整合性が図られている。 「地域森林計画」に登載された事業計画となっている。
	2 地域の課題に適切に対応する目標となっていること	☑	県内の地域の実情を反映した目標となっている。
効果・効率性	1 整備計画の目標と定量的指標の整合性がとれているか	☑	直接的な整備目標ではなく、森林基盤整備事業として地域経済を活性化するための指標としており、計画の目標と指標の整合性が図られている。
	2 事後評価ができる適切な指標となっていること	☑	統計的に、後年度評価可能な指標としている。
	3 構成事業の実施による効果を評価するための指標として適切なものであること	☑	森林整備及び治山事業が連携して取り組むことにより効果が発揮される総合的な指標としている。
	4 個別事業の費用対効果分析の結果が1.0以上であるなど、事業の効果発現が見込まれること	☑	費用対効果は1.0以上となっており、事業実施による効果が十分見込まれる。
実現可能性	1 円滑な事業執行の環境が整っていること	☑	事業量、予算規模に対応できる実施体制が整っている。
	2 事業実施地域の合意形成が図られていること	☑	個別計画策定時に、地域住民に対し説明会等を開催するなどして、合意形成がなされている。
評価結果	(A)事業の実施 B:計画の見直し		[評価基準] 「事業の実施」は全項目に✓印がついている 「計画の見直し」は1項目でも✓印がついていない